

2004 年 3.8 国際女性デー岡山県集会アピール

国際女性デーとは、1902 年 3 月 8 日に、ニューヨークで行われた婦人参政権要求に始まり、1910 年、デンマークのコペンハーゲンにおける社会主義者国際会議の席上、政治上、経済上、社会上の男女の平等を達成するため、世界的に集会やデモを行う日と決定されたものです。以来この行動が世界の女性に受け継がれ、一人ひとりの人権が大切にされ、自由と平和な社会をめざして行動し続けています。

日本においても全国各地でこの行動は継続されています。岡山でも 40 数年に渡って様々な学びと連帯と行動をしてきました、とりわけ、99 年辺りから臆面もなく堂々と憲法を踏みにして戦争ができる国へと急旋回する中で、政治の根源に触れる事柄へと方向付けられてきました。それは、再び人権が奪われ命が疎かにされることへの私たちの危機感からです。石原東京都知事が「学校から国を変える」と発言し、元教育課程審議会会長・三浦朱門がゆとり教育について「学力を低下させるためにやっているんだ。今まで落ちこぼれのために限りある予算とか教員を手間暇かけ過ぎて、エリートが育たなかった。これからは落ちこぼれのままで結構で、そのための金をエリートのために割り振る。非才無才はただ実直な精神だけを養ってくれればいいんだ。」と発言したことは周知のとおりです。また、ノーベル賞受賞者の江崎玲於奈氏が「就学時に遺伝子検査をしてできる子にはそれなりの教育をして、できない子にはそれなりの教育をすればいいんだ」と発言したことも記憶に新しい、聞き捨てならない事柄です。あの豊かな教育基本法と世界に誇る日本国憲法をセットで改悪し、再び戦争へと歩みだす計画以外のなにものでもありません。

そしてアメリカは、石油利権、軍需産業、人種差別、宗教差別などを絡めてイラクへの攻撃を行いました。今や「大量破壊兵器」の大義も否定されているのに、相変わらず日本はブッシュにシッポを振り、自衛隊が「重装備」で復興支援に赴き、海上自衛隊は米軍と一体化が進んでいるとあっては、今後どういうことになるかは明らかです。日本としては、憲法をもってブッシュを糾すことこそ第一にやらなければならないことです。

一方、国内に目を向ければ、長引く不況により、倒産やリストラ、賃金抑制など厳しい労働環境に加え、年金、医療、介護など社会保障制度は財政悪化により負担が増え、給付が減るなど、私たちは将来の生活に不安を抱えています。

このような中で女性たちは、誰もが自分らしく平安に生きられる社会をめざし、政策決定の場、意志決定の場へ積極的に参画し、解決すべき課題に立ち向かっています、人権が尊重され戦争と暴力のない世界にするために、世界の人々と手をつないで行動を続けていきましょう。

2004 年 2 月 14 日

3.8 国際女性デー岡山県集会